



後楽ホテルで開催された愛育寮「100枚のマット展」(8面に関連記事)



CONTENTS

- P3 旭川荘医療福祉学会
- P4-5 旭川児童院 ぼんぼんくらぶ
- P6 バスガイドさんがクリスマス慰問
- P7 各施設で成人式
- P8 ひだまり苑へ車いす寄贈

旭川荘 ぞより

vol.

186

2014.02.01 発行

発行/社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
<http://www.asahigawasou.or.jp>



旭川児童院・睦学園の合同成人式(7面に関連記事)

— 総合性の
具体化 —

名誉理事長 江草 安彦

肢体不自由児施設旭川療育園、知的障害児施設旭川学園、乳児施設旭川乳児院の3粒の種がこの祇園地先に蒔かれてから、かれこれ60年が経過している。なぜこの3施設であったのか？それは、当時の岡山県の福祉需要から、この3分野の整備が急がれていたためである。創立者の川崎祐宣先生が理想としたのは、医療を中心とした総合社会福祉施設であり、3施設に共通するのは医療福祉的サービスを大きな柱とすることであった。

川崎先生の理念に共感した整形外科医の堀川龍一先生と小児科医である江草安彦が手を携えて、旭川荘のオープンの先頭に立った。2人はいずれも30才代前半であった。この3施設をもつ旭川荘を病院に例えれば、入口、受付は1つである。だが診療は、整形外科、小児科というようにそれぞれの診療科に分かれて受診する。その上、必要に応じて診療科を超えて隣接診療科の専門家の協力を得るということにすれば、それぞれの施設が単独に存在するよりは、はるかに旭川荘利用者にとって「すぐれた旭川荘となる」のではないかと考えたという考え方であった。

旭川荘が創設時から「総合施設旭川荘」と銘打っているのは、単に複数の施設が集まっているということではなく、サービス機能の上で施設間、専門職が協力する総合的な施設機能をもったところに特長がある。旭川荘はサービスを「縦割りのサービスだけでなく横割りのサービスも」としてとらえる経営を目指してきた。昭和30年頃ではこうした考えは理解されにくい発想であった。厚生省の関係課には、この総合性を掲げた旭川荘の考え方は受け入れ難いとまで言われた。その頃の施設は、それぞれが独立した、つまり自己完結型であった。そうなれば他からの協力はなかなか得にくい。それでは利用者は困るのである。

それから旭川荘は60年を経過している。各種の分野で人の全人生にわたってのサービスを提供するために、多くの施設を増設してきた。分野別、年齢別、サービスの複雑さなど、

それぞれの立場からの協力はうまくやれているだろうか。

分野を超えての協力を進め、深めるためには、サービスに従事する人々が自分の属する分野での専門性を深めるだけでなく、隣接領域についての学習、理解をすることが必要である。総合化のためには、境界領域の意味を理解するとともに、人々が交流することが有効であると思う。この60年に近い旭川荘の先駆的な実験(?)は、今では常識となってきている。設置法人を超え、施設間の違いを超え、専門職のもつ

専門性を超えるために、積極性と相互の信頼がとても重要である。

総合、協調、相互支援は理念としては理解出来るし否定する人はいないだろう。しかし、現実には人の弱さもあって、協力が出来ないまま“蛸壺”に入りがちとなるのは悲しいことである(蛸壺とは蛸を捕まえるための素焼きの壺で、海中に沈めると蛸が自分の住み家として壺を選び1匹ずつ入っている)。蛸壺に籠もることなく、自分の専門性に自信を持ち、その自分と周辺との関係をどのように保つかが大切だと思う。

医療機関も福祉施設も、それぞれの施設の中で利用者にとって最善のサービスを提供しようとしている。しかし、サービス提供側はすべての要望にこたえられるものではない。周辺の専門性をもつ機関へ協力を求めるのは当然であり、施設は垣根を下げて利用者へのサービスを深めねばならない。言うは易く行うは難いと言うが、私たちのような医療福祉現場においても、頭でわかっていても現実にはなかなか難しい。



旭川荘創設時の3施設

旭川荘医療福祉学会 ～一般演題、前田賞助成研究、特別講演など多彩な内容で開催～

第31回旭川荘医療福祉学会が昨年12月12、13日、旭川敬老園および旭川荘厚生専門学院で開催されました。旭川荘職員による一般演題の発表や外部講師による特別講演が行われましたので、その一端を紹介します。

一般演題

一般演題は、旭川荘の現場での実践や海外研修の報告など、全部で53題の発表がありました。

一例を挙げると、旭川児童院の平田圭さんらは、知的障害者の運動不足による生活習慣病に着目し、一般的な運動を容易に行えない障害者でも手軽に行える「ボールつき」「トンネルくぐり」など30種類の運動を、運動のねらいや強度などと共に記載した「運動指導カード」を作成し、障害程度に応じて使用できるようにしたことを紹介。さらに、医療施設の医師、薬剤師、管理栄養士、OT、PT等で構成される「栄養サポートチーム」が、障害者の低栄養のサポートだけでなく、運動にも配慮した栄養サポートを行うことが今度の課題であると提言しました。

NO. 28 運動指導カード	
運動名	トンネルくぐり
運動のねらい	主に柔軟性を向上させ、調整力も高める

(運動の方法)

運動の条件	
強度	速い歩行の速度
距離	3～5m
回数	5～10回
頻度	3日/週

(指導上の注意点)
2～3mのトンネルを両手を利用してのはいはい歩行でくぐり抜ける。



運動指導カード(トンネルくぐり)

前田研究奨励賞

一般演題のほか、研究助成の対象となる第29回前田研究奨励賞の3題が決定しました。

旭川児童院の西達也さんらは、移動能力に制限がある年少児が電動移動遊具を利用して自分で移動し、早い時



電動移動遊具

期から周囲の環境と関わることで、発達を促進できるという先行研究をもとに、電動移動遊具を利用した利用者支援を試みようとしています。

かえで寮の高河直樹さんらは発達障害のある人の高齢化に対応する支援を行うために、岡山県内の障害者支援施設を対象に、介護・医療ニーズや家族の思いなどを調査し、今後の支援体制作り役に役立つ計画です。

南愛媛療育センターの濱田悦子さんらは、「化粧療法」という分野に着目しました。女性の重症心身障害児(者)にアイシャドーや口紅などの化粧をする機会を提供し、喜びの度合いなどを研究しようとするものです。化粧という女性らしい楽しみを取り上げた点に興味を持てるほか、研究としては表情や行動をどれだけ客観的に捉えられるかも鍵になるようです。

これらの研究成果は、来年度の旭川荘医療福祉学会で報告することになっています。

特別講演

13日は京都大学iPS細胞研究所阿曾沼慎司顧問を講師に「iPS細胞の実用化に挑む～現状と課題～」と題して特別講演が開催されました。京都大学の山中教授のノーベル賞受賞を機に、ますます注目されるようになったiPS細胞。阿曾沼顧問はiPS細胞を簡単に分かりやすく説明されました。

iPS細胞のキーワードは「初期化」。皮膚や内臓などに分化した細胞に、山中教授が発見した初期化遺伝子(山中因子)を組み込んで培養することでiPS細胞ができるそうです。iPS細胞はほぼ無限に増殖でき、神経細胞や内臓の細胞などいろいろな細胞に分化できるという特徴があります。この特徴を利用して、再生医療はもちろんのこと、iPS細胞によって作り出された神経細胞や内臓の細胞を使って薬の開発が可能になります。パーキンソン病や網膜疾患である加齢黄斑変性などの治療の研究が精力的に進められています。今後、倫理的な問題や拒絶反応などの問題を解決していくことが課題ということです。



講演する阿曾沼顧問

重い障害のある人に「作業する楽しみ」を

旭川児童院

ぽんぽんくらぶ

ぽんぽんくらぶの作品

カラフルな羊毛フェルトを丸めた飾り玉「ぽんぽん」。旭川児童院では重度の重複した障害を持つ利用者たちが「ぽんぽん作り」に取り組んでいます。それを可能にしたのは、作業療法士を中心とするスタッフの熱意と斬新なアイデア。保護者のサポートもあって、ぽんぽんを使った作品も生まれています。製作現場を訪ねました。（広報委員 那須京子）



自分の力を 最大限に使って



マッサージ器の振動を利用して
カプセルを振ります



握りやすく工夫した道具を使って
ぽんぽんを丸めます

作業療法「ぽんぽんくらぶ」は平成21年にスタート。自分の力を最大限に生かしながら「目的を持って体を使うこと」と合わせ、モノを作る楽しみや達成感を味わってほしい、という作業療法士の思いで始まりました。現在はゆり、うめ、もも病棟と旭川児童院通園センターの計15人が週1回の活動に参加しています。

ぽんぽんの作り方は ①羊毛フェルトをプラスチックカプセルに入れる ②石鹼水に浸しかたまりにする ③カプセルに蓋をして丸くなるまで振ると、いたってシンプル。しかし多くの利用者にとって、小さなカプセルを「手で握って、振る」という簡単な動きも大変な困難を伴います。

『「振る」動きを何かで代行できないか』一。目を付けたのが、電動スライサーやマッサージ器、フードプロセッサー…。それぞれに紐やテープでカプセルを固定し、機器の動き(振動)を利用してフェルトを丸めます。電源のオン＆オフは

アレンジで 素敵な作品に変身

旭川児童院通園センターでは、利用者が作ったぼんぼんを保護者の手でブローチや髪飾り、ストラップ、クリスマスツリーなどお洒落な雑貨にアレンジ。親子合作の素敵な作品が次々と生まれています。編み物や針仕事、デコレーション…それぞれの得意分野でアイデアを出し合い、楽しい会話の中で作品が作られています。

保護者の一人、森脇和子さんは「親子そろってぼんぼん作りの活動を楽しみにしている。お兄ちゃんが通園セン

ぼんぼんで作った
ブローチや髪留め



ターでどんなことをしているのか、家族に知らせるためにwelcomeボードを作ってプレゼントした」。活動の中心的存在、尾崎由美さんは「(秋祭りの展示等で)一般の方が作品を手に取り『かわいい』と喜んでくださるのが嬉しい。ここに通う子どもたちのために、頑張ってお手伝いしたい」と話しています。



ぼんぼんで作品を作る通園センターの保護者の皆さん



ぼんぼんを利用して作った welcome ボード

利用者がスイッチで操作。スイッチも少しの力で操作できるものを選ぶなど工夫しています。手を動かせる人には棒のついた入浴剤ケースにカプセルを入れて握りやすく、振りやすくするなど、利用者一人一人の身体機能に合わせた手作りの「道具」には作業療法士たちのアイデアが詰まっています。

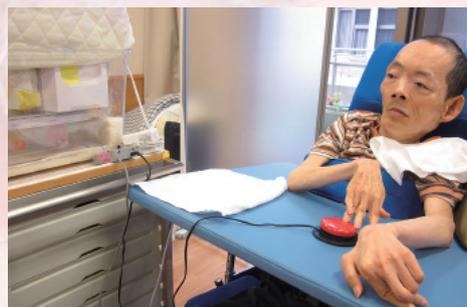
「最初はスイッチに興味のなかった人が、長く続けるうちに操作してくれたり、『どの色がいい?』と声を掛けると好みの色の羊毛に手を伸ばしたり、言葉のコミュニケーションが難しい人たちも、身体の動きや表情によって『自分でやりたい』という表現を見せてくれる」と、ぼんぼん作りを取り入れた竹中佳子療育主幹(作業療法士)。何より「作業中に笑顔がよく見られるようになった」ことに手ごたえを感じると言います。

利用者が作ったぼんぼんは、スタッフがストラップに加工。面会日に保護者にプレゼントしたところ「この子がこんなものを作れるなんて」と大変喜ばれたそうです。また、ストラップのほかに、ペンやメモスタンド、マグネットなどに飾り付け、「ぼんぼんくらぶ」の作品として児童院秋祭りで展示しており、職員や他の家族にも大好評です。

竹中主幹は「重い障害をもった人でも、道具の工夫と周囲の働きかけで作業に参加できる。利用者が『ぼんぼんくらぶの日』を期待して待ってくれるよう、支援を続けていきたい」と話しています。



手を伸ばして好きな色のフェルト羊毛を選びます



電動スライサー(左端の透明な容器)の動きを手元のスイッチで操作

バスガイドさんがクリスマス慰問

旭川療育園では12月24日、両備バスの新人バスガイドさんたちがクリスマス慰問に訪れました。3人のバスガイドさんが、サンタクロースやトナカイ、シンデレラに扮して、寸劇や手遊び、合唱などを披露。最後は一人ひとりにお菓子をプレゼントし、子どもたちなど約60人の参加者も大喜びでした。

この慰問は新人バスガイドの研修として昭和39年から始まり、今回で50回目となります。長年にわたる訪問への感謝の気持ちを込めて、末光茂理事長が感謝状を贈呈しました。



子どもたちに寸劇を披露する新人バスガイドさん

かえで寮でクリスマスコンサート 理大附中高吹奏楽部

岡山理科大学附属中学・高校吹奏楽部の皆さんによるクリスマスコンサートが12月23日、かえで寮で開催され、利用者や家族ら約100人が息の合った演奏を楽しみました。

施設のクリスマス行事に合わせた初の企画で、部員18人がクリスマスメドレーや「あまちゃん」のテーマ曲など9曲を披露。楽器紹介や手作りのマラカスをを使った演奏など趣向を凝らしたプログラムで盛り上げました。利用者も満面の笑みで体を揺すったり、マラカスを鳴らしたり、音楽を満喫。会場全体が温かい雰囲気に包まれました。



クリスマスコンサートを開いた理大附中高吹奏楽部の皆さん

児童院通園センターで餅花づくり

旭川児童院通園センターで12月19日、恒例の餅花づくりが行われ、利用者が一足早い正月の雰囲気を楽しみました。

餅花とは、小さく丸めた餅を花に見立てて柳の木の枝などに刺し、一年の五穀豊穡を祈願して飾るもの。4年前、同センターの担当だった看護課の頼則みち子課長補佐が新庄村の餅花づくりをニュースで知り「障害で食べることが困難な利用者さんがいつまでも美味しく食べられるように」という思いから、活動に取り入れたいと考えたのがきっかけです。この話を聞いた利用者の藤本晃一さんの家族が自家栽培した餅米を提供してくださるようになり、以来、年末のお楽しみイベントとして定着しています。

この日は送迎の運転手さんたちが山から切り出した柳の枝を花瓶に活けて、玄関ホールに設置。つきあがったばかりの紅白の餅を職員と家族が手際よく丸め、一つ一つに願いを込めながら枝に飾り付けていくと、見事な餅花が完成しました。



通園センター恒例の餅花づくり

療育園にカバ車来訪 さくさくぱんだも

旭川療育園に1月7日、カバヤ食品の宣伝カー「カバ車」が来訪。同園の子供たちを喜ばせました。

カバ車の訪問は平成23年のクリスマスに始まり、今回が3回目。この日は同社の人気キャラクター「さくさくぱんだ」もやって来ました。

子どもたちは「大きく開いた口」「くるくる動く小さな耳」などカバの特徴を模したユニークなカバ車に興味津々。カバ車と一緒にスナップ写真を撮ってもらったり、さくさくぱんだに抱きついたり、携帯やゲーム機のカメラでお気に入りの1枚を撮影したり、思い思いに東の間の交流を楽しみました。最後に「お年玉」として全員にラムネ菓子がプレゼントされました。



「カバ車」と「さくさくぱんだ」に大喜びの子どもたち

旭川荘管理栄養士のいきいき健康レシピ

鬼のお好み焼き

モリモリ食べて、邪気を払おう！

〈材料〉4人分

- キャベツ 葉3枚(200g)
- 豚ミンチ肉 80g
- 小麦粉 カップ1/2
- ベーキングパウダー 小さじ1/2
- 山芋(すりおろし) 大さじ4(60g)
- 卵 1個
- ☆ サラダ油 大さじ1
- 粉かつお 小さじ2
- 塩 少々
- 水 カップ1/4
- お好みソース 適量



栄養量:1人分

エネルギー:227Kcal
たんぱく質:8g

- 飾りつけ
- 角 とんがりコーン
- 髪 (焼きそば) 中華めん
- 青のり お好みソース
- 目 { マヨネーズ
- グリンピース
- 鼻 ブロccoli
- 口 パプリカ(赤)



〈作り方〉

- ①キャベツは1cm角位に細かく切る。
- ②豚ミンチ肉は炒めて、そばろ状にする。
- ③☆を混ぜ合わせる。
- ④③に、キャベツと豚肉を加えて混ぜる。



- ⑤温めたフライパンに分量外のサラダ油を薄くひき、④を流し広げ中火で焼く。焼き目がついたら、裏返し、弱火でフタをして、火が通るまで焼く。
- ⑥中華めんを炒め、焼きそばを作っておく。
- ⑦⑤を皿に盛り、お好みソースをぬる。
- ⑧角、髪、目、鼻、口を飾りつける。



2月3日は節分です。寒い冬を終えて春を迎える前に、邪気「鬼」を払う行事です。その節分と言えば、まず思い浮かぶのは豆まきですが、豆まきの他にも、鬼を払うために鬼の嫌う柗の枝に鯛の頭を刺したものを戸口に立てておいたり、炒った大豆を年の数だけ食べるという習慣があります。

今回は、手軽においしく、楽しく「鬼」を払えるように、鬼の顔をしたお好み焼きを紹介します。このお好み焼きを食べることで鬼退治をして、一年の無病息災を願ってはいかががでしょうか。(旭川児童院 吉田有美)



噛むことが難しい方にも食べやすいように、豚ミンチ肉を使っています。すりおろした山芋やサラダ油を加えることで、軟らかくふっくらとしたお好み焼きになります。自分好みの鬼の顔を作ってみて下さい。



各施設で成人式 利用者の門出を祝う

旭川荘の各施設で成人式が行われ、職員や家族が大人の仲間入りを果たした利用者の門出を祝いました。

かわかみ療護園では1月16日に開催。成人を迎えた富家翔さんに中町真也園長が「自分で決めた道をしっかりと歩いてほしい」とエールを送り、記念品のデジタルフォトフレームを贈呈しました。最後は利用者全員と職員、ボランティアで富家さんを囲み、記念撮影を行いました。

旭川児童院・睦学園でも同日、合同成人式を行い、樽酒を割って新成人4人を祝福。新成人の保護者を代表して

利広美恵さんが「この日を迎えられたのは多くの人のおかげ。これからも感謝の気持ちを忘れずに、充実した人生を送ってほしい」と謝辞を述べました。真庭市(旧八束村)花園地区青年団の皆さんによる恒例の餅つきもあり、つきたての紅白餅が配られました。

また、吉備ワークホーム(9日、新成人2人)、わかば青年寮(14日、1人)、南愛媛療育センター(15日、1人)、ひらた旭川荘通園センター(20日、2人)でも、新成人を祝う行事が開催されました。



ボランティアさんに祝福される富家さん(中央)



花園地区の皆さんによる餅つき

愛育寮「100枚のマット展」開催

愛育寮の利用者が作った結び織りマットを展示・販売する「100枚のマット展」が、1月17日から31日まで後楽ホテル（岡山市北区平和町）で行われました。

落ち着いた色合いで温もりのあるマットは、初日の午前中だけで62枚も売れるなど大盛況。見学に訪れた愛育寮の利用者たちも、自分たちの作ったマットがたくさん売れたことを知ると歓声をあげて喜んでいました。

近くに住む松山英子さんは「たまたまホテルの横を通ったら素敵な作品が展示されていた。優しい色と風合いがとても気に入りました」と話し、真剣な表情でマットを選んでいました。

利用者が一つひとつ心を込めて織り上げた結び織りの魅力が多くの人に伝わった「マット展」でした。



多くの来場者があったマット展

中国地方郵便局長協会より車いす寄贈 ひだまり苑へ

財団法人中国地方郵便局長協会より12月12日、介護老人保健施設ひだまり苑へ車いす3台を寄贈していただきました。

贈呈式で同協会高梁部会の成羽郵便局飯芽繁夫局長が「地域の皆さんがあつての郵政事業。地元の方に使っていたきたい」と挨拶。菅原英次所長は「住み慣れた地域で過ごしたいという思いを大切にしながらケアしている。利用者の生活を支えるために役立てたい」と感謝の意を述べました。

同協会では公益事業の一環として、車いすや介護用品などを福祉施設へ届けており、今年度は中国地方20ヵ所、岡山県下では5ヵ所に寄贈しています。



寄贈された車いすに乗る利用者(中央)と関係者

甲羅本店からおせち寄贈

(株)ケイコーポレーションの「甲羅本店」から、年末におせち料理が寄贈されました。

今回の寄贈は、旭川荘役員を通じて同店から初めて提案いただいたもの。吉備ワークホーム、旭川学園、愛育寮、いづみ寮、グループホームはなみずきの5施設に計10セットのおせちが届けられ、年明けとともに利用者に提供されました。

普段はおせち料理に触れる機会の少ない利用者も、立派なおせちを前に「お正月らしさ」を楽しみながら、おいしくいただきました。



おせちを楽しむ旭川学園の子どもたち

旭川荘ごよみ

SCHEDULE CALENDAR

2月

- 1日 重症心身障害児者モデル事業・地域セミナー
.....南愛媛療育センター
- 15日 療育発表会みどり学園
- 6日 第4回医療シンポジウム北宇和病院
- 22日 山登り療育(龍ノ口山)バンビの家
- 27日 卒業演奏会(百花プラザ)旭川荘厚生専門学院
- 27日~5月23日
常設展(春)旭川荘アートギャラリー
- 開催中:旭川荘アートギャラリー第4回特別展(~21日)
- ☆ 節分行事 ~各施設

3月

- 5日 川上小学校交流会望の丘ワークセンター
- 6日 強度行動障害連絡会議いづみ寮
第42回卒業証書授与式旭川荘厚生専門学院
- 13日 第31回つばさコンサート旭川児童院
- 20日 旭川荘評議員会・理事会旭川荘
- ☆ ひな祭り行事 } 各施設
- 卒業・卒園行事 }



編集後記

広報委員5年目ですが、今回初めて取材を体験しました。初めてのインタビューはとても緊張しましたが、お話しくださる方々の言葉を大切に記事にしなければ...と改めて思いました。このコーナーは広報委員が持ち回りで担当します。続けて、ご期待ください!(広報委員 那須)